

令和5年度 広瀬小学校 学校経営の基本構想

校長 杉谷 崇

1 学校経営の基盤

知・徳・体のバランスを重視した「生きる力」の育成を図り、生涯学習に通じる基礎・基本の教育を推進する。

常に子どもを第一義として、保護者や地域の願いを受け止め、地域に根ざした活力ある広瀬小学校の教育に努める。

- (1) 人権教育、人間愛、信頼し合う人間関係を基盤とした自主的・創造的な教育活動の推進を図る。
- (2) 基礎学力の充実、主体的・対話的で深い学びの実現を図り、児童一人一人の能力・個性の伸長をめざす。
- (3) 職場の秩序を保ち、常に明るい雰囲気の中で個々の特性を発揮することを通して、教育目標の具現化を図る。
- (4) 家庭・地域との連携を密にし、開かれた学校づくりに努め、信頼と連帯に支えられた教育を推進する。

2 学校教育目標

学びあい 磨きあい 鍛えあいながらたくましく生きる子どもの育成

3 めざす児童像（カッコいい子どもを目指す）

- よく考え、勉強にはげむ子ども
 - ・自らを高めようとし、自ら共に考え、話し合い、学びを深める子ども
- 明るく、豊かな心をもつ子ども
 - ・豊かな感性をもち、自ら自分や人を大切にし、地域を愛する子ども
- たくましく、ねばり強い子ども
 - ・自ら進んで心身を鍛え、健康で明るく、ねばり強くやりぬく子ども

4 学校経営の重点

(1) 確かな学力づくり

- ◎自分自身が納得できるまで粘り強く、ていねいに集中して取り組む。
- 個に応じたきめ細かい指導の工夫
 - （少人数授業、個別指導、繰り返し、補充・発展学習、単元末テスト・学力調査・CRTの活用、ICT・クロームブック・電子黒板の活用）
- 指導方法・指導内容の工夫（主体的・対話的で深い学びの追求、教材解釈を基盤、児童から出発する問題解決的な学習、学び合い、ペア・グループ対話→全体対話の指導、自学を中心とした家庭学習の充実）
- 学校図書館活用教育の充実（読書記録を活用した読書活動、読書指導、調べ・まとめる学校図書館活用教育）

(2) 豊かな心づくり

自己決定と思いやり

- ◎当たり前を当たり前にする。認め合いながら楽しく学校生活を過ごす。
- 児童理解のための具体的な手立ての工夫
 - （事前指導、日記、記録の蓄積、個別の教育支援計画、個別の指導計画）
- 自分自身を振り返る機会や場の設定（自己評価と相互評価、感想発表）
- 基本的生活習慣の確立（明るい挨拶、真剣な掃除、整理整頓、廊下歩行）
- 温かい集団づくりの中で自己肯定感を高める工夫（言葉、マナー）
- 理解教育の推進とユニバーサルデザインによる授業づくり（見通し）

- 人権・同和教育の推進（進路保障）
- 道徳教育の充実（考え、議論する道徳、学校教育全体での取組の充実）
- 自主的活動を活性化する工夫（場の保障と工夫、児童会活動）

（3） 健やかな体づくり

- ◎自分の体力や体の成長に関心を持ち、積極的に体力作りに励む。また、危険を予測した行動がとれる。
- 重点指導事項の設定（メディアとの上手な付き合い方、保護者への啓発）
- 体力作りの実践化に向けた工夫（体幹を鍛える運動、わたしたちの体育を活用した体育指導、課外活動と場の設定、外遊び・運動の推進）
- ねらいを明確にした安全指導（計画的指導、避難訓練等）
- 体育科の授業の充実（基本スタイルの確立、研究の視点の明確化、特別支援教育との関係性）
- 施設、設備の機能・安全的管理（日常的・定期的な安全点検、迅速な修繕、環境整備等）

（4） 開かれた学校づくり

- ◎子どもの健やかな成長について、地域と学校とが遠慮なく意見交換できる雰囲気があり、地域の中で展開される教育活動を目指す。
- 学校と地域、保護者間の情報の送受信（たより、ホームページ、懇談）
- 地域、保護者の学校運営への参加（PTA行事、学校関係者評価委員会）
- 地域の教育力の活用（ふるさと教育、交流センターとの連携）

5 めざす教職員像

- ◎豊かな人間性と愛情にあふれた教職員
「笑顔とチームワーク」（困ったことは「チーム広瀬」で解決）
共働意識、共通目標、コミュニケーション、支え合い・磨きあう職員室

（1） 心身共に健康で信頼される教職員

- 凡事徹底を基盤に据える
- 教職員の健康は学校教育の原動力、常に健康に留意する
- 子どもの命を守り、命を守る子の育成を図り、子どもや保護者に誠意をもってあたる
- 報連相を早く的確に、いつでもチームで対応する
- 率先垂範、明るい挨拶、教職員のコミュニケーションを重視する（カッコいい姿を見せる）
- スクラップ&ビルド、スリム化を図り、効率的に目的を達成できる行事等の改革を行う

（2） 自ら学び、わかる授業づくりに努める教職員

- 共に学び、育つことを喜びとする（人間形成の場としての職場）
- 職員室を情報交換の場にし、話す人の顔を見て聴き、対話する
- 子どもが分かる授業を目指し、日々研鑽に努め、授業力を高める
- ・子どもの主体性の尊重 ・学習内容の追求・向上
- ・見通しを持たせる計画性 ・教材解釈力、子どものやる気の醸成
- ・子どもの実態把握、賞賛 ・授業の定時終了の厳守

（3） 子どもを認め励ます教職員

- 児童理解に心がけ、児童との信頼関係を構築し、児童同士の信頼関係も構築する。
- アンテナ高く子どもの状態を把握し、声にならない声や訴えを聞き取る
- 子どもの声に耳を傾け、温かく、時には厳しく指導する
- 常に向上心を持ち、子どもの姿から常に自分を振り返る